

はじめてのクラシック

INTRODUCTION TO CLASSICAL MUSIC

イラスト:IKE/文:松井治伸

A
2026
APRIL
[第2060回]

みんなから慕われる楽団の「パパ」

ヨーゼフ・ハイドン

Franz Joseph Haydn (1732-1809)

ハイドンは29歳のとき、ハンガリーの貴族エステルハージ侯爵の宮廷楽団に副楽長として就職します。5年後には楽長に昇進。楽長ハイドンは、侯爵がお望みとあらばいつでも楽団の演奏を聴かせ、合間を縫って交響曲やオペラを作曲し、時には楽員同士のいざごごをなだめつつ楽団を指導育成したりと、忙しい日々を送ります。勤勉で面倒見が良く、「パパ・ハイドン」と呼ばれ慕われました。楽団のチェロ奏者のために書いたのが《チェロ協奏曲第1番》。明るくなごやかな音楽からは、パパ・ハイドンと楽員たちの笑顔が見えてくるようです。



エステルハージ宮廷で楽団を指揮するハイドン。
この大広間は「ハイドンザール」と呼ばれ、
現在でも演奏会で使われている

©IKE